

## 校長研修だより195

### 「人づくり」

2025・4・23 重枝 一郎

本校は初代ギール校長が「女性が新しい生き方を見つけられる学校」という「人づくり」を理念に掲げる学校である。どの学校も「人づくり」を理念に掲げているが、結局誇っているのは、合格した学校名や合格者の数である。私は、「合格者数」以外の価値をアピールすることが、「人づくり」の理念につながると考えている。私も昭和・平成の教育機関を生きた人間なのでジレンマはある。ただ、「難関〇〇大学に〇名合格」のフレーズは機能しなくなっている。今は、合格者数のみを売りにしてきた進学塾でも生徒の集客で苦戦を強いられている。私たちは、合格者訴求一辺倒から脱却しなくてはならない。つまり、平成の「ゴール至上主義」から令和の「プロセス重視型指導」への切り替えの価値を、保護者・生徒に対する提供価値としなくてはならない。

本校は、卒業生とのつながりが強い。それは、卒業生たちの“その後”を誇れるチャンスが多いということになる。このつながりは、生徒がどのような道を選び、どのような形で社会に貢献しているのかを知ることができる。ここが「人づくり」の理念に直結する。

私が、最上位の目標に決めている「自律的学習者」の育成においても、「人づくり」に直結しなくてはならない。また、広報的に目標としている「他校との差別化」「本校の存在意義」においても、「人づくり」に直結しなくてはならない。そこの柱となるのは、やはり「キャリア教育」になる。非認知能力を育てられる「キャリア教育」は、保護者も求めるようになってきている。また、学習意欲は「キャリア教育」で鍛えられることも浸透してきている。

#### 【年度初めのリーフレットにも書いている内容】

話は変わるが、年度初めに先生方にしてほしいことがある。それは「自分の授業の売り」を最初にしっかり整理して打ち出してほしい。自分の授業を受けて学習していくと生徒にとってどんなメリットがあるかをはっきり打ち出してほしい。授業への信頼度を高めることで、生徒の主体性を引き出すことができる。また、自分の授業のトリセツも語ってほしい。ルールだけでなくマナーも。教科指導と生徒指導は表裏一体だから。気をつけてほしいのはそのルールの運用である。自分がその運用ができないと、教師の指示の重みがなくなる。自分が運用できるルールを簡潔に伝えてほしい。スポーツの審判は、ボールがラインを出たら瞬時に「アウト」と言う。試合が盛り上がっていきようがないが「アウト」と言う。それで関係性が悪くなったりしない。効果的な「アウト」を言えたら、ルールの運用はきちんとできる。

生徒たちの初頭効果をねらって1年間よろしく願います。